

福井県立坂井高等学校 マイスター・ハイスクール事業

～3年間の報告～



CEO
プロデューサー

三村 友男
南 良一

目指すところ

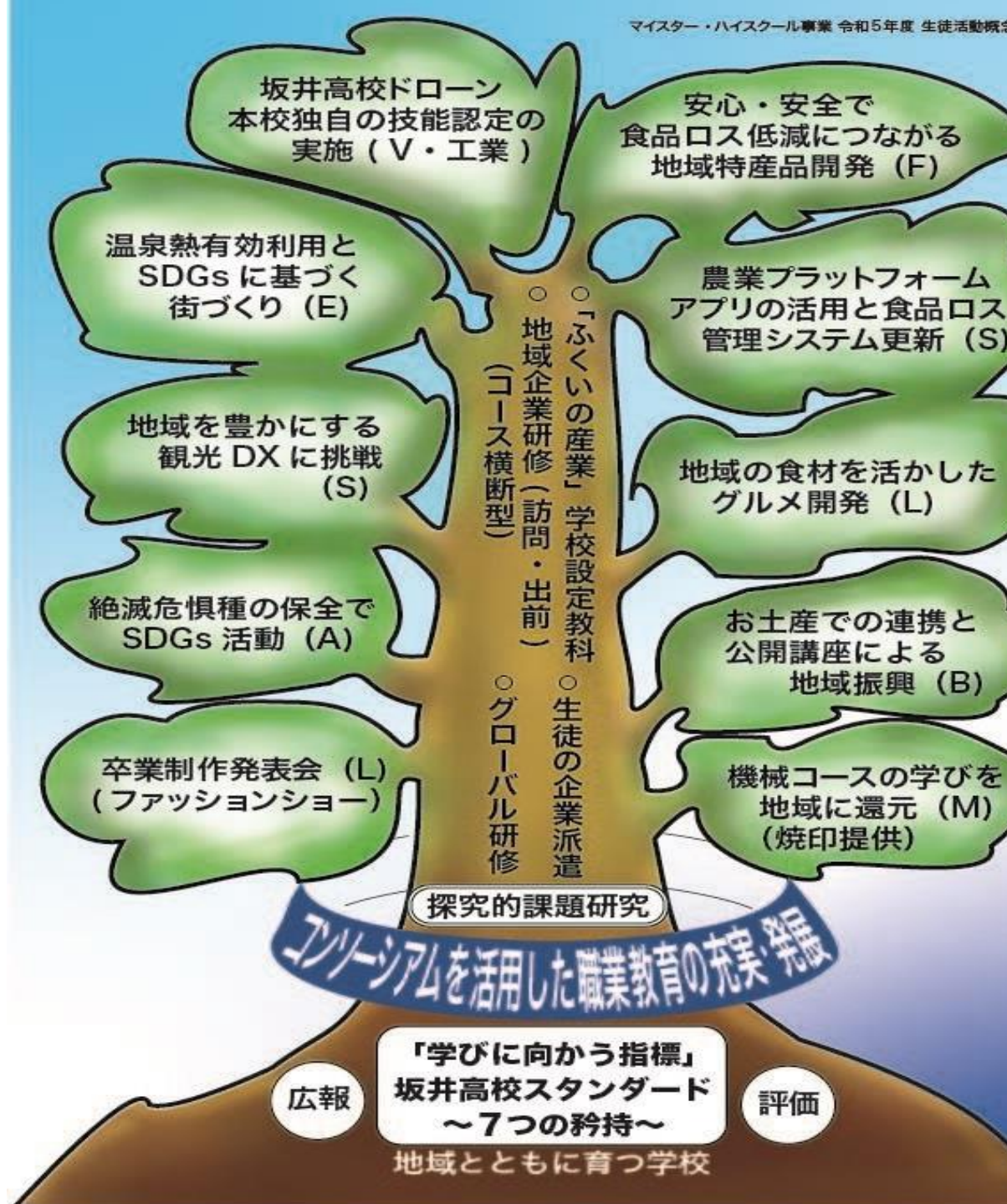
- ・ **地域の課題と地元企業の価値を理解し、持続可能な次世代の地域産業を担う人の育成**
- ・ **産学官との連携を強化した「総合産業高校」の新しい在り方の創造**

育てたい生徒像

- 自己肯定感を持ち、主体的に生きることができる人
- DX等の先端技術に触れ、それを用いて社会寄与に貢献できる人
- 地域産業人と協働し、地域の産業の価値と課題を認識でき、持続可能でグローバルな視点をもって社会に貢献できる人

坂井高校マイスター・ハイスクール事業

生徒活動概念図



別添資料参照

根

① 根の部分について

坂井高校スタンダード「学びに向かう指標」の策定と実施

幹

② 幹の部分について

学校設定科目「ふくい産業」
企業との研修

葉

③ 葉の部分について

学科を横断した探究的な課題研究（動画）
各コースの受け継がれていくテーマ

④ 3年間の学びと令和6年度からの展望について

坂井高校スタンダード「学びに向かう指標」の策定と実施

根

校訓を具体的な行動目標に落とし込み、見える化
2年間をかけて協議した、生徒と教員「学び」の指針

自主・協働・創造

授業・清掃・挨拶

助け合う力・ともにつくる力

基礎学力・資格検定

生徒会の主体的な行動

- ・職員会議で先生方への要請
- ・始業式で生徒への啓発
- ・各種委員会への要請

教員サイド

若い先生を中心に「坂井高校をよくする勉強会」を定期的実施。生徒への質の高い学びへの保障等を中心に授業実践についても話し合う

「学びに向かう指標」坂井高校スタンダード～7つの矜持～

別添資料参照

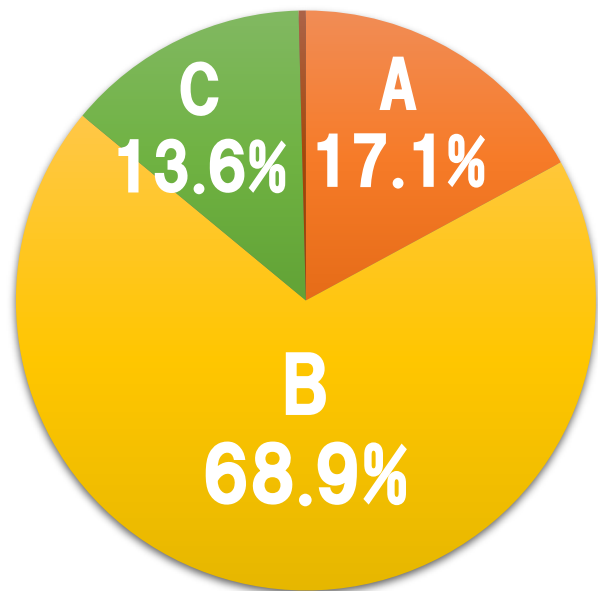
	自主(人間力向上のために)			協働(社会の一員となるために)			創造(豊かに生きるために)	
	学ぼうとする力	貢献する力	礼節の力		助け合う力	ともにつくる力	基礎学力	必要な技術・技能
	授業	清掃	挨拶		グループ活動	特活・行事	GTZ	資格・検定
A	自主的にできている その日に学習することをあらかじめ知り、考えながら授業に参加することができる。	自分で考えて掃除を進められ、担当箇所を美しくできる。	誰に対しても、自分の方から適切な言葉で挨拶をすることができる。	周囲のことも意識してできている	どんなグループにおいても協力し合うことができ、意見を出し合いながら課題の解決を図ろうとする。	主体的に活動に関わり、仲間とともに最後まで役割を果たすことができる。	基礎力診断テスト A1～B3以上	コースで標準とされているものに合格し、高いレベルのものにも挑戦することができた。
坂井高校生としての目標を十分達成しており、さらなる広がりがみられる(応用)								
B	与えられたことはできている 授業に参加して、与えられた課題について考えることができる。	決められたことは取り組むことができる。	誰に対しても、適切な言葉で挨拶を返すことができる。	与えられたことはできている	ある程度の人とは協力し合うことができ、課題の解決を図ろうとする。	仲間とともに、最後まで役割を果たすことができる。	基礎力診断テスト C1+～C3以上	コースで標準とされているものを取得できた。
坂井高校生として卒業までに最低限身に着けたい力が身についている(標準)								
C	やる気はあるができていないこともある 授業に参加して、言われたことだけ、することができる。	教員が見ているときだけは、取り組むことができる。	場面によっては、挨拶をすることができる。	やる気はあるができていないこともある	他者とうまく協力することはできないが、自分の役割は果たすことができる。	その場には参加しており、言われたことだけを実行する。	基礎力診断テスト D2～D1+	コースで勧められたものに合格もしたが、不合格の方が多かった。
坂井高校生としての目標をあと少しで達成できそうである(基礎)								
D	やらないことが当たり前になっている 何も取り組まなかったり、私語をしたりして、学びのさまたげになる。	注意されることが多く、やらないことが当たり前になっている。	挨拶をされても、返さない。無視することがある。不適切な言葉を使う。	やらないことが当たり前になっている	話し合いに関心が持てず、協力せずに結論が出るのを待つ。関係のない話をする。	その場にはいないこともあり、活動や作業には参加しない。寝ていたり私語をしたりして時間を潰す。	基礎力診断テスト D3～D3+	受験を放棄したり、受験したものに、ほとんど合格することができなかったりした。
坂井高校生としての目標を達成するにはさらなる努力が必要である(要努力)								



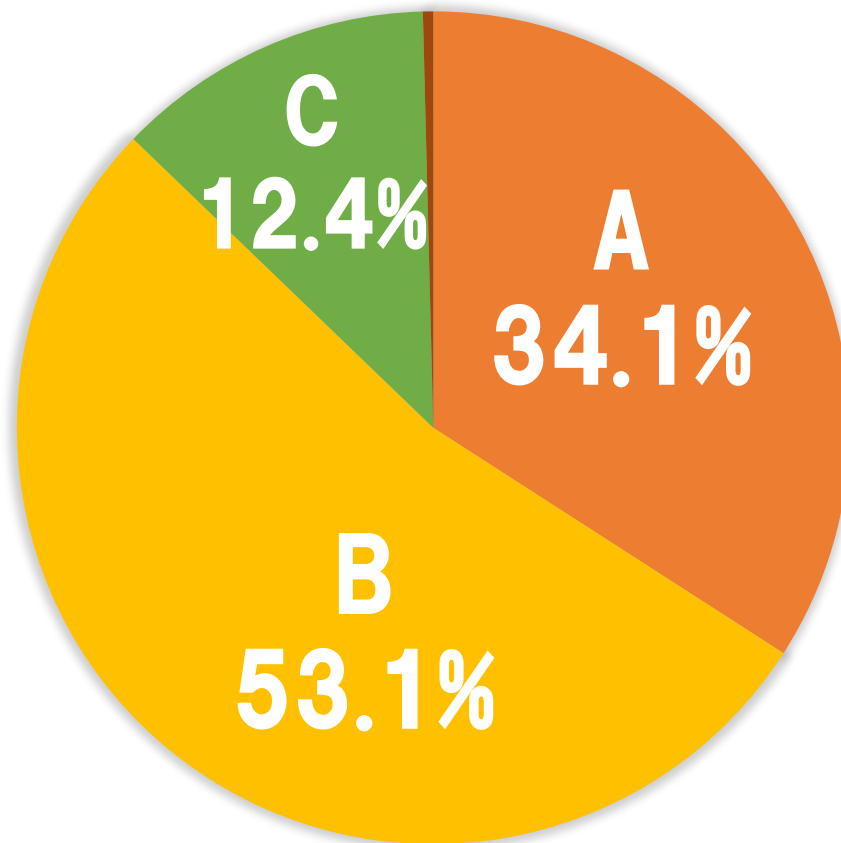
坂井高校スタンダード「学びに向かう姿勢」の策定と実施

根

自主：学ぼうとする力【授業】（3年生）



R5 1学期



R5 2学期

- A 自主的にできている
- B 与えられたことはできている
- C やる気はあるができていないこともある
- D やらないことが当たり前になっている

数か月で、自主的に学ぼうとする生徒が増加

学校設定科目「ふくいの産業」 1学年全クラス



幹

○企業人と創る授業

各コースの担当者が企業を選定し、協議を重ねて4～5コマの授業を創る。

→企業の生徒へのメッセージと、学校サイドの要求が融合し
実習を伴う生きた授業が生まれている。

○コース間での授業

他のコースの教員の授業を受け、産業を総合的にとらえる

例・農業コースの生徒が電気の授業を受ける

（「電子デバイス企業について」「電気について」）

- ・コース教員が精選した福井県の企業の経営者によるオンライン授業
- ・産業実務家による「観光」、「デザイン」の授業

1年の段階では、地域や地域産業について幅広く知ること、課題を知ること、その解決に向けて意識を高めることなどをねらいとし、総合産業高校ならではの産業に関する包括的な学びを実施



坂井高校でしか受けられないよー
【コース間での授業】

幹

ふくい産業

幹

他コースの先生の授業が始まるよー



1A



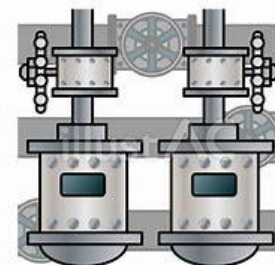
電気コース 千寺丸先生 の授業です！

- ・9月11日(月) 1限目
「(株)福井村田製作所ビデオ視聴」
福井から世界へ“地域と共生しながら商品・技術を創造”

- ・9月25日(月) 1限目
「電気について」



1F



機械コース 富田先生 の授業です！

- ・9月12日(火) 6限目
- ・9月26日(火) 6限目

「機械
ものづくりについて」



学校設定科目「ふくいの産業」 生徒の声

幹

○生徒間の交流授業にもつなげてほしい

自分のコースでイベントがあったら、それを他のコースにも共有する時間がほしい

○学びの振り返りを生徒に還元してほしい

他の生徒の学びを共有したい



企業訪問研修

- 1年 地域産業を学び
- 2年 地域産業の課題を知り
- 3年 課題解決に取り組む

1年生:自分の専門に関わる企業を訪問

2年生:自分の専門に関わる企業と
専門以外の企業の2社を訪問

企業の生の現場に触れる

- ・実際に見る
- ・体験する
- ・直接話を聞く

➡ 地元企業の課題・
変化している現状を知る



企業訪問研修 生徒の声

幹

- ・ 企業研修は「感じる場」「考えていかなければいけない場」である
- ・ 初めて知ることも多く、社会人になったときのイメージができた



来年度以降

- ・ コンソーシアムを活用し、課題を共有。
- ・ 探究に繋げていける場にする。
- ・ 県内の他の高校にも呼び掛け、ともに研修し交流できるようにする。



企画研究発表会

～学科横断・探究的な課題研究の成果～



各コース代表が、学科横断・探究的な研究内容を発表

参加者：全校生徒、近隣中学生、OB・OG、PTA、文部科学省、
コンソーシアム参加の産官学関係者

➡ 学びの成果を関係者に広く周知し、次年度以降の協働、
研究継続等につなげる



今後の生徒との協働について

生徒の声から、今後を展望



① 坂井高校スタンダード「学びに向かう指標」について

- 本当に学校を良くしていこうとする生徒の生の声
- 学校は「学びの生活の場」。そこを快適にしたいという生徒の行動



生徒と教員の共通認識をさらに進化させる

コンソーシアムの活用の中で、指標の項目に関してはさらにステップアップしていくことも考えていく

② 学校設定科目「ふくいの産業」について

- ふくいの産業を包括的にとらえる視点を重視
- 産業の結びつきを感じつつ専門の深化を図れるように3年間試行錯誤を積んできた
- 他コースが学んでいることを知り、生徒間でも対話が生まれている。産業は繋がっていると感じ、自分の立ち位置を自覚してきている



- ・ 3年目の取り組みを基盤とし、コンソーシアムを活用し産官学と連携した授業を深化させていく
- ・ 2年次からの課題研究につなげていく。知り、掴み、考える。そこから探究の姿につなげていく

3年間を通じての生徒の変容

- 産業のつながりを知り、「学び」の広さと楽しさが生まれた
→協働は相乗効果をもたらすことを知った
- 人との交流・伝えることが楽しくなった。
→コミュニケーション力がつくことで自己肯定感が育まれてきた



次年度以降はコンソーシアムを活用した職業高校の学びの変容の中で、さらに産学官ともにWell-Beingを感じていけるような学びの質の向上を追求

マイスター事業の終了から次のステップへ

マイスター事業の継承・自走のための 坂井高校コンソーシアム設立

- ▶ 生徒、PTA、地域の小中高等学校、産学官との協働の学びを創造
- ▶ 教育を社会とともに育てる

生徒はマイスター事業から産業の繋がりを感じた。
その帰結として、グローバルにかつDXも視野に入れて
次は社会と繋がり、学びを深化させる

坂井高校コンソーシアム体制

職業教育を産学官が担い、探究心を持った総合産業人の育成をめざす

<会員> 賛同企業 自治体
研究・教育機関
学校(教員・生徒・PTA)

<活動内容>

- ・「ふくい産業」の授業を学校と企業で創る
- ・企業への訪問研修
- ・企業からの講師派遣による出前授業
- ・企業と協働での課題研究の取り組み
- ・企業からの課題提起(実社会への貢献)
- ・生徒から企業への問題提起
- ・新たなカリキュラムの開発

<目指すところ>

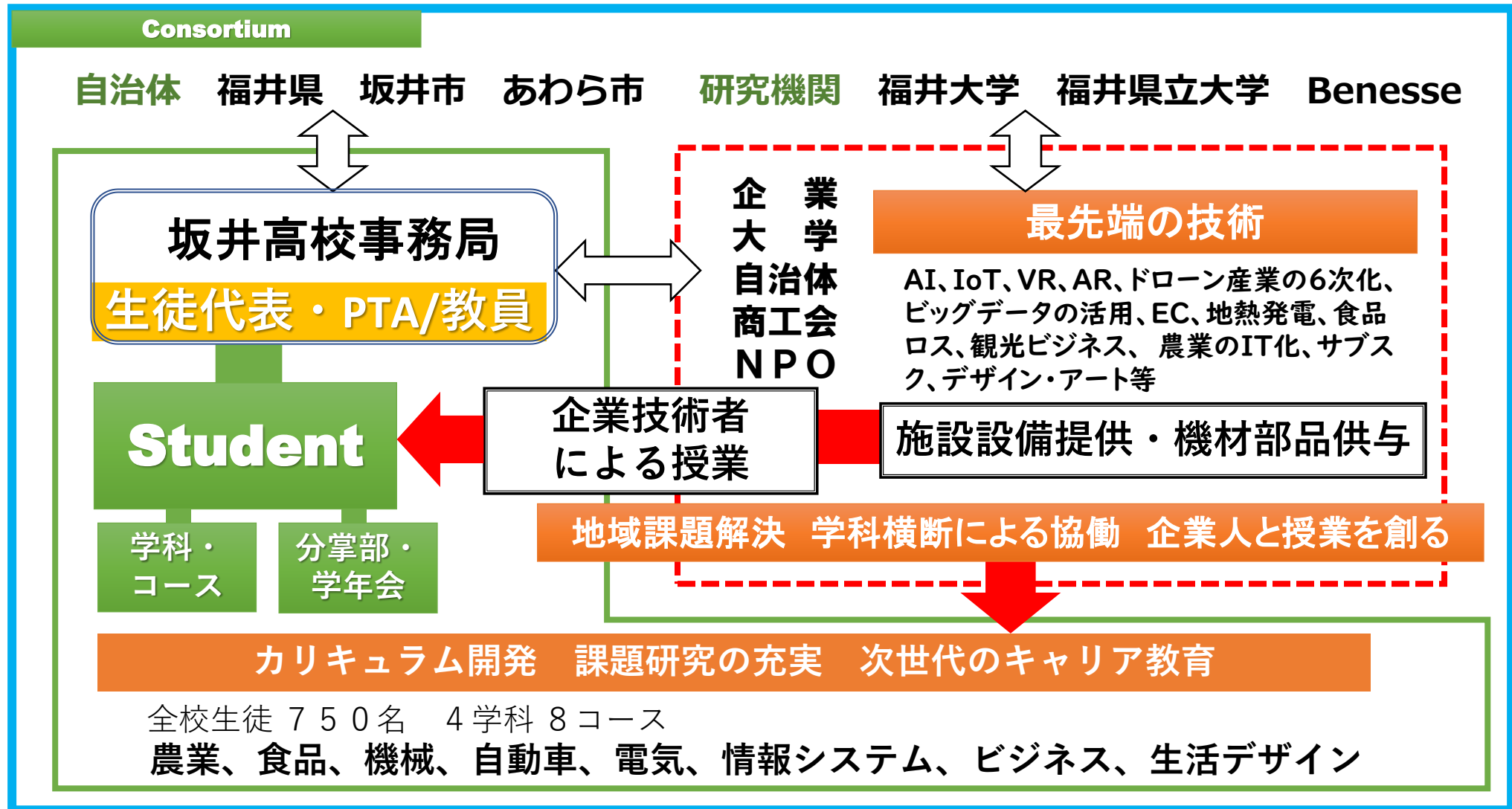
福井の産業に関心をもち、探究心の旺盛な生徒の育成

- ・職業人としての資質の向上
- ・地元企業への愛着の醸成
- ・協働による地域への貢献
⇒生徒も企業も関係機関もともにWell-beingを達成

令和6年度 坂井高校コンソーシアム 実施体制

別添資料あり

産学官によるコンソーシアムを活用した職業教育の充実



ご清聴ありがとうございました

福井県立坂井高等学校
マイスター・ハイスクール事業

CEO
プロデューサー

三村 友男
南 良一